

2016 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

【事業の概要】

荒川水系全体で荒川クリーンエイドを運営した。特に荒川下流部においては、新たな実施地を開拓するなどして活動実施範囲の拡大に努めた。荒川下流の 42%の河川敷で活動が実施された。

ゴミを拾うだけでなく、参加者が川ゴミによる環境負荷や発生原因等について学び、日頃からできるだけゴミを生まない生活を実践するような啓発を充実させた。

マラソン大会、サイクリング団体等と連携したイベントを企画・運営することで、荒川河川敷利用者とのコミュニケーションの機会を設け、流域市民・河川敷利用者への啓発活動を進め、ゴミが捨てられない機運を高めることに寄与した。さらに主催ゴミ拾いの回数を増やし、関心の高い個人の参加の機会を増やした。

【主な実施事項】

① 調べるゴミ拾い

2016 年度も、散乱ゴミ、粗大ゴミについて「調べるゴミ拾い」を実施した。

182 会場がエントリーし、158 会場で実施、延べ 12,848 人が参加した。

年間の活動範囲を広げ、これまでほとんど実施していなかった 1.2km を新規に加えた。荒川下流では両岸で計 24.6km。全体の 42%へと広がった。

② 感謝状の発行

実施団体 92 団体に対し、3 月に感謝状を発行し、活動参画の証しとともに感謝の意を表わした。

③ 説明会・体験会の開催

8 月 27 日(土)に説明会および体験会。4 月 24 日(日)、10 月 10 日(祝)に体験会を開催した。特に、初めて実施する団体、キャプテンや担当者が交代する団体には参加を要請し、運営方針や実施方法の周知を図った。

④ 主催・共催会場の運営

4 月 29 日(祝)FUJIO PROJECT、10 月 1 日(土)にふるさと清掃運動会実行委員会、6 月 12 日(日)、12 月 4 日(日)に豪田ヨシオ部、11 月 13 日(日)に一般社団法人グッド・チャリズム宣言プロジェクトとそれぞれ共催した活動を運営した。駅伝大会参加者、サイクリング関係者等荒川利用者団体、その他若者団体等に荒川クリーンエイドを普及させた。

⑤ 実施サポート

実施団体の要望に応じて、活動実施のサポートを行った。(21 団体合計 29 回)

⑥ 「ゴミをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発 ～マイボトル de ゴミ拾い。～

川ゴミの自然環境への影響や、ゴミをできるだけ生まないライフスタイルについて考える機会を提供することを目的に「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンを継続し、マイボトルの持参を呼びかけた。新たに実施した会場については、昨年同様のマイボトル推奨啓発パネルを配布した。

⑦ 河川敷利用者への啓発

マラソン団体、サイクリング団体等と連携し、イベント会場でのクリーンエイドの実施、会場でのアナウンス等、荒川河川敷利用者へのゴミ持ち帰りの啓発を進めた。

⑧ 効率的なゴミ回収に向けた取り組み

東京理科大水理研究室と連携し、ゴミが溜まるメカニズムを調査し、より効率的な川ゴミ回収を目指す取り組みを始めた。

2. 生物多様性の保全

【事業方針】

里川創造プロジェクトについては、国土交通省の「荒川下流自然地管理アダプト制度」の下、荒川クリーンエイドを中心に、楽しみ、学びながら都市の自然を守ることを目指し、他の市民団体、学校、企業等と連携して自然地の環境保全と普及啓発を進めた。

絶滅危惧種の復活プロジェクトでは、行政や地域団体と連携して絶滅危惧種の棲める環境の再生を進めた。

【主な実施事項】

① 里川創造プロジェクト

江戸川区小松川自然地においては、「里川小松川自然地協議会」の構成団体として、地域の団体や学校、企業と協働し、クリーンエイド、外来種の除草、自然環境教室等、自然地の環境保全とその普及啓発を推進した。荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、国と連携を継続した。

足立区千住桜木地区においても、荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、クリーンエイド活動を中心に、環境保全を進めた(両地区合計 17 回、のべ 1,924 人参加)。

また、その他の地域についても、荒川クリーンエイド実施団体の要望に応じて、外来種の除草を行い、生物多様性保全を推進した。

② 絶滅危惧種の復活プロジェクト

荒川河川敷のヒヌマイトトンボの保全を目的として、行政、地域団体等と連携して、生息環境の整備、および地域の参加者とともに生息個体数のモニタリングを実施(20回)し、成虫を3回目視で確認した。

3. 環境教育の推進

【事業方針】

荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体と連携しながら、人々が川ゴミの問題について学び、環境保全意識を高めるよう、荒川をフィールドとした環境教育を推進した。

人材育成プログラムについては、若者層への啓発の機会として、新入社員研修を中心に、積極的に推進した。また、社会性向上・環境研修として、様々な対象への応用にも取り組んだ。

【主な実施事項】

① 学校教育の支援

小松川自然知・里川創造プロジェクトの一環として、2校2回の支援を行った。その他の地域については、地域の団体等と連携し、学校が実施する荒川クリーンエイドを支援した。

② 人材育成プログラムの実施

チームビルディングを体験しながら川ゴミの環境負荷について学ぶ「環境に悪いゴミ拾いゲーム」を中心に、プログラムをブラッシュアップした。5社の新入社員研修を実施した。

秋には、翌年度のプログラムの充実をめざし、企業のプロボノチームに支援を受け、新たな研修プログラムの開発を行った。

③ 自然環境教室の開催と支援

里川創造プロジェクトの一環として、市民が参加できる「バッタとなかよし」を9月10日に開催した。また、クリーンエイドの一環として、希望する企業に対し、自然環境教室の支援を行った。

④ 環境保全リーダー育成講座の開催<new>

荒川クリーンエイドのリーダーを育成するため、7月23日(土)、クリーンエイド体験、水再生センターの見学会、ワークショップを含む講座を開催した。

4. 水質調査の実施

【事業方針】

身近な水環境のモニタリングを通じ、水環境への関心を高めることを目的に、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。

【主な実施事項】

① 「身近な水環境の全国一斉調査」への参加

荒川本川、及びその支川、流域の川や池等での調査協力者を募集し6月5日(日)午前10時を中心に、45カ所で調査を実施した。その結果を取りまとめ、全国水環境マップ実行委員会に提出した。調査項目はCOD(低濃度)とした。また、12月3日に開催された同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営等について協議を行った。

5. 流域連携

【事業方針】

荒川流域内の交流と、流域の課題の共有を目的に、源流域、中流域、及び下流域の団体と連携した活動を推進した。

【主な実施事項】

① 荒川源流・秩父森林保全ボランティアの実施

9月3日(土)に、「荒川源流・秩父森林保全ボランティア」を実施し、13名が参加した。秩父市の支援のもと、薪拾いボランティア、秩父の森づくりボランティアとの交流を通じ、荒川源流部の恩恵を受けている下流域の市民が、源流の自然を楽しみながら源流の問題を共有できる機会とした。

② 荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO法人荒川流域ネットワークが中心に推進する荒川流域再生プロジェクトによるアユの遡上調査活動に参加した。8月27日(8月20日実施予定が雨天延期)に実施した「魚とり体験」に広報協力した。また、2017年3月11日に同NPO法人が開催した「荒川流域再生シンポジウム」に共催団体として参加し、流域連携を進めた。

③ 埼玉県河川環境団体連絡協議会や川の再生交流会への参加

埼玉県内の河川団体が加盟する埼玉県河川環境団体連絡協議会(埼河連)や2月4日に埼玉県主催で開催した埼玉県・川の再生交流会に参加、パネル出展し、連携を図った。

④ 荒川自然懇談会を通じた荒川下流河川事務所との協働

9月6日、2月21日に、当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で官民協働で開催された「荒川自然懇談会」に出席し、荒川の自然の回復に向けた協議を行った。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

【事業方針】

全国の川や海とつながって川ゴミ問題の解決、発生抑制に取り組むことを目指し、川ゴミ拾いの全国ネットワーク構築を本格的に開始した。また、業界団体、行政が進めるゴミの発生抑制に向けた啓発の取り組みに、データ提供等を通じて積極的に協力した。

【主な実施事項】

① 全国川ごみネットワークとの連携

河川等全国の水辺でゴミ拾い活動に取り組む団体のネットワーク「全国川ごみネットワーク」の事務局として、中心的に運営を支援した。そのネットワークにより、3月4日に第3回川ごみサミット亀岡保津川会議を京都府亀岡市で開催し、関連団体と協力しながら全国での川ごみ削減を目指した。

② 関連団体との連携

9月10日、11日にいい川・いい川づくり実行委員会主催で開催されたいい川づくりワークショップ、3月18日に川の日ワークショップ関東大会に出席、発表した。9月9日、9月24日、1月29日、河川協力団体協議会の意見交換会に参加し、川のゴミ削減に向け意見交換を行った。他にも日本プラスチック工業連盟と随時情報共有を行っている。

③ 海ゴミとの連携 ～一般社団法人 JEAN との連携～

国際調査期間の荒川クリーンエイドのゴミ調査結果を JEAN に提供した。調査データは国際海岸クリーンアップ (ICC) キャンペーンに報告され、世界の海洋ゴミ調査と世界の海ゴミ問題の解決に貢献した。

④ 海外との交流 <追加>

9月23-24日に、ロシアで開催された NOWPAP ワークショップに参加し、荒川クリーンエイドの仕組みや活動内容を紹介した。10月22日に、カリブ海地域の記者の取材に応じ、荒川のゴミの状況や活動について紹介した。

⑤ 他地域でのクリーンエイドの実施 <追加>

沼津市からの依頼により、「NUMAZU クリーンエイド」のサポートを行い、荒川以外の地域での「調べるごみ拾い」が展開する第一歩となった。

7. 広報・情報発信

【方針】

各種情報媒体で、主に次の目的の広報・情報発信活動を展開した。

- ・荒川クリーンエイドへの参加者・賛同者を増やす。
- ・会員・関係者間のコミュニケーションを促進し、情報や運営方針の共有を図る。
- ・川ゴミの発生抑制を目指し、調査データ等を活用した情報発信を行う。

【主な実施事項】

① ホームページ

最新情報や各詳細コンテンツの充実を図るとともに、見やすいページ作りに努め、随時更新した。

② ニュースレター

会員・関係者との情報共有を図るべく、年2回(8月、1月)発行した(各500部)。

③ Eメールニュース(メールマガジン)

毎月初めに(年12回)配信し、各月の旬のニュースを届けた(各回約1,050名に配信)。

④ 報告集

ゴミの調査データや活動の結果を集約した報告集を3月に発行した(1,500部)。会員・関係者および情報拠点等に配布した。

⑤ ポスター、リーフレット

実施団体が秋のクリーンエイド参加者を募集する支援としてポスター900部、リーフレット15,000部を作成した。ポスターのうち100部は大きなサイズとし、駅でも目立つようにした。実施団体、沿川自治体などに活用いただいた他、情報拠点や沿川の約30駅にポスターを掲示、駅のラックにリーフレットを配置いただいた。

⑥ ソーシャルメディア

Facebookを活用してタイムリーな話題を随時提供し、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題への関心を高めた。広報強化の一環として、LINEスタンプ作成・公開を行った。

⑦ イベント出展

6月4日江戸川区環境フェア、8月11日イオンモール川口店のキッズ夏休みの自由研究、10月23日東京湾大感謝祭のイベントに出展し、荒川クリーンエイドへの参加の促進、川ゴミの発生抑制につながる情報発信を行った。また、荒川クリーンエイド実施団体や情報拠点等が、イベント等で荒川クリーンエイドや川ゴミ問題について効果的に情報発信できるよう、パネル、紙芝居等の貸し出しを行った。

⑧ セミナー開催、外部講演

8月25日に、プラスチック工業連盟、一般社団法人プラスチック循環利用協会からゲストをお迎えし、毎日メディアカフェでセミナーを開催してプラスチックゴミ対策に関してディスカッションを行った。

12月7日下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会、2月11日板橋区環境ボランティア講座、2月17日香川県主催の海ごみに講師として出演し、荒川や海のゴミ問題とクリーンエイド等の情報発信を行った。

⑨ テレビ、ラジオ出演 <追加>

これまでも毎年5回ほど出演していたFMえどがわに加え、6月7日渋谷のラジオ(渋谷区コミュニティFM)、11月16日フジテレビWEBチャンネル、3月24日J-WAVEにスタッフが出演し、荒川クリーンエイド活動紹介、プラスチックゴミの現状などについて伝えた。

⑩ 東京都広報ビデオ制作協力 <追加>

海ごみ対策の普及啓発ビデオの(東京都環境局)制作にあたり、小学生の荒川学習を座学、現場体験ともにサポートした。完成したビデオは今後の普及啓発に活用する予定。

8. 組織運営

【方針】

報告会及び連絡会を通じて、会員等とのコミュニケーションを活性化し、また、理事・運営委員会を通じて、より円滑な組織運営を図った。

【主な実施事項】

○報告会の開催

2月10日に報告会を開催し、活動の成果等について会員・関係者等と共有した。また5団体に功労者賞を贈呈した。

○連絡会の開催

2月10日、報告会に併せ、会員・関係者と活動に関する情報を共有し、意見交換する連絡会を開催した。

○理事・運営委員会の開催

今年度より、兼廣先生が理事に加わり理事9名態勢となった。総会議案、人事等について協議・決定するため、理事会を3回開催した。

事業を円滑に進めるため、運営委員会を6回開催した。

○ファンドレイジング（資金調達）

自主事業を積極的に進め、自主財源基盤の強化に努めた。

パソコンやスマホを利用したクリック募金（gooddo）に登録、寄付の受け皿となる「カワサポ」の登録で、気軽に寄付を受けられる態勢を開始した。

○事務局体制の強化

5月から専従職員1名を新規採用し、事務局体制を強化した。

2016 年度活動概要一覧

事業	活動名	実施日・会場等	概要
1 荒川ク リーンエ イドの運 営	荒川クリーンエイド 2016	4～12月	エントリー 164、実施 142、のべ 12,007 名参加
	荒川クリーンエイド 2017	1～3月	エントリー 12、実施 10、のべ 216 名参加
	説明会・体験会	8/29 足立区生涯学習センター 4/24、10/10 下平井水辺の楽校	活動の趣旨・実施方法の説明等
	主催・共催会場の運営	4/29、6/12、12/4 10/1 11/13 5/22,6/26,9/17,12/17,3/25	駅伝大会と共催、豪田ヨシオ部と共催 ふるさと清掃運動会と共催 グッドチャリズム宣言と共催 あちこちクリーンエイドとして主催
	啓発	クリーンエイド実施時、イベント時等	マイボトル持参、エコライフのすすめ
	実施サポート		企業、学校等の依頼に応じて随時
	効率的な回収(*)		東京理科大と連携した調査
2 生物多 様性 の保 全	里川創造プロジェクト	9/10 4月～11月	9月10日(土)バッタとなかよし 小学校、企業等の活動支援
	絶滅危惧種の復活プロジェクト	4月～3月	地地域団体、自治体等と連携して実施
3 環境 教育	学校教育の支援	小松川自然地	2校2回
	人材育成プログラム		新入社員研修 5社8回、プログラム開発
	自然環境教室の開催と支援	9/10	クリーンエイドの後に7回、単独開催1回
	環境保全リーダー育成講座(*)	7/23 足立区・戸田市	水循環センター見学、講演会等
4 水質 調査	身近な水環境の全国一斉調査	6/5 12/3	水質調査(45カ所) 全国水環境マップ実行委員会出席
	5 流域 連携	荒川源流・秩父森林保全ボランティア(*)	9/3
荒川流域再生プロジェクト		8/27、3/11	魚とり体験会、シンポジウム
埼玉川の再生交流会		2/4	参加、パネル出展
荒川自然懇談会		9/6,2/21	市民団体、河川事務所と協議
6 他セ クター や全 国・世 界と つな がる 活 動	全国川ごみネットワーク	通年	事務局業務
	関連団体との連携	9/10,3/18 9/9,9/24,1/29 随時	いい川づくり、川の日ワークショップ 河川協力団体 日本プラスチック工業連盟
	一般社団法人 JEAN との連携	随時	9-10月の荒川クリーンエイドのデータを提供 他
	海外との交流	9/23-24 ロシア	NOWPAP ワークショップ参加、他
	7 広報・情 報 発 信	ホームページ、Facebook	随時
ニュースレター		8,1月に発行	各500部制作配送
Eメールニュース(メールマガジン)		毎月初め	各回約1,050人に発信
報告集		3月発行	1500部制作
ポスター、リーフレット(*)		8月発行	ポスター900部、リーフレット15,000部。参加者募集
イベント出展		6/4,8/11,10/23	区その他主催のイベント等に出展
セミナー、外部講師		8/25,	毎日メディアカフェ、その他3回
テレビ、ラジオ出演		6/7,11/16,3/24 他	フジテレビ WEBチャンネル、J-WAVE
8 運 営	ビデオ制作協力	1～2月	東京都環境局
	第17回定期総会	5/13 北とびあ	昨年度事業報告、当年度事業計画の協議
	報告会・連絡会	2/10 北とびあ	クリーンエイド 2016 成果報告、意見交換等
	理事会・運営委員会		6回開催

(*)は助成金事業としての取組